

福井工業大学
令和7(2025)年度 卒業生満足度アンケート調査
結果報告



FUT
Fukui
University of
Technology

令和8年6月
教学IR委員会

1. 調査概要

今回の卒業生満足度のアンケート調査の実施概要は以下の通りです。

調査対象: 令和8年3月卒業生 学部 442名

調査方法: LSM(Learning management system)の「manaba」を用いて調査

調査期間: 令和8年1月6日～3月19日

回収数: 表 1 の通り

表 1: 学科別アンケート回収数および回収率

学部名	学科名	卒業生数	回収数	回収率
工学部	E 電気電子工学科	68	68	100%
	M 機械工学科	64	64	100%
	A 建築土木工学科	76	75	98.7%
	N 原子力技術応用工学科	19	19	100%
環境情報学部	F 環境食品応用化学科	21	21	100%
	K 経営情報学科	97	97	100%
	D デザイン学科	37	37	100%
スポーツ健康科学部	S スポーツ健康科学科	60	60	100%
計		442	441	99.8%

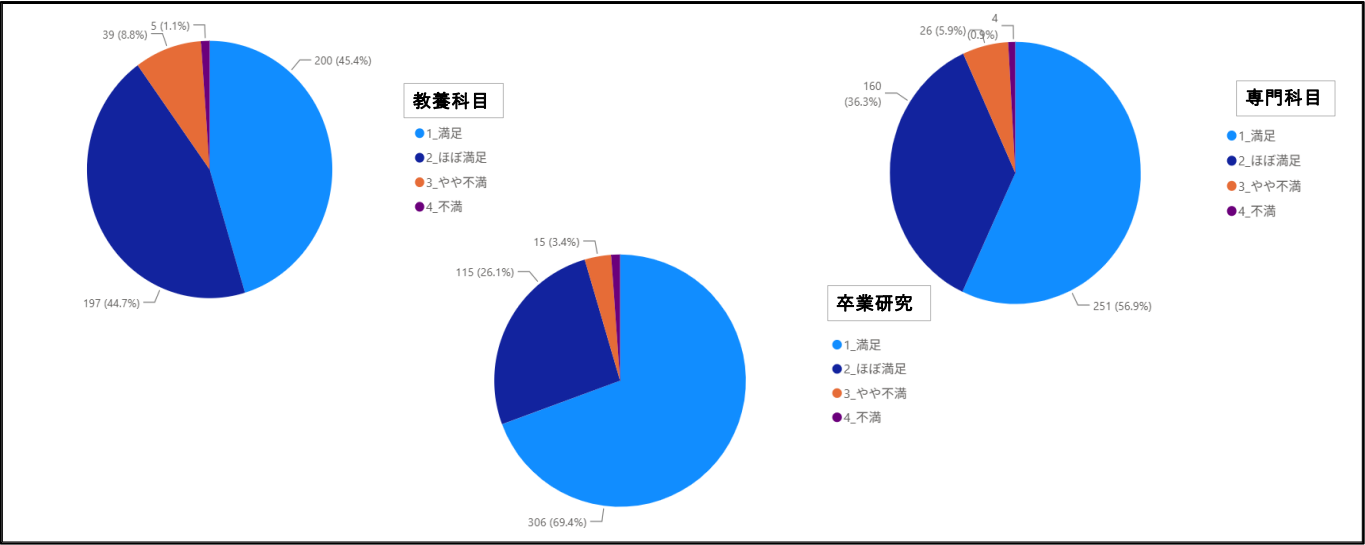
参考	卒業生数	回収数	回収率
令和6年度	493	482	97.8%
令和5年度	545	515	94.5%
令和4年度	534	507	94.9%
令和3年度	515	509	98.8%
令和2年度	514	505	98.2%

2. アンケート調査項目

- 1) 大学における分野ごとの「学び」についての満足度
- 2) 大学生活における取り組み・大学生活環境の満足度
- 3) センター等の支援・サービスの満足度
- 4) 英語教育プログラム「SPEC」の評価
- 5) 留学生との交流について
- 6) 知人への本学進学への勧め
- 7) 卒業後の進路についての満足度
- 8) 大学生活でのサポート体制の満足度
- 9) 本学の良かった点・悪かった点について

3. 集計結果

1-1) 大学における分野ごとの「学び」についての満足度をお聞かせください。



昨年度同様、分野ごとに「学び」の満足度(教養科目・専門科目・卒業研究)について調査しました。

- ・教養科目「満足」(45.4%)「ほぼ満足」(44.7%)を合わせ、**90.1%**(令和6年度 90.7%)
- ・専門科目「満足」(56.9%)「ほぼ満足」(36.3%)を合わせ、**93.2%**(令和6年度 94.4%)
- ・卒業研究「満足」(69.4%)「ほぼ満足」(26.1%)を合わせ、**95.5%**(令和6年度 95.0%)

昨年度に引き続き、大学における「学び」の中心となる教養科目、専門科目、卒業研究が、9割以上の高い満足度を得ていました。

教養科目	E	M	A	N	F	K	D	S	合計	割合
満足	30	30	36	9	11	37	15	32	200	45.4%
ほぼ満足	30	27	31	9	8	50	17	25	197	44.7%
やや不満	6	6	8	1	2	9	5	2	39	8.8%
不満	2	1	0	0	0	1	0	1	5	1.1%

専門科目	E	M	A	N	F	K	D	S	合計	割合
満足	36	35	47	14	13	45	23	38	251	56.9%
ほぼ満足	25	25	25	5	6	43	12	19	160	36.3%
やや不満	6	3	3	0	2	7	2	3	26	5.9%
不満	1	1	0	0	0	2	0	0	4	0.9%

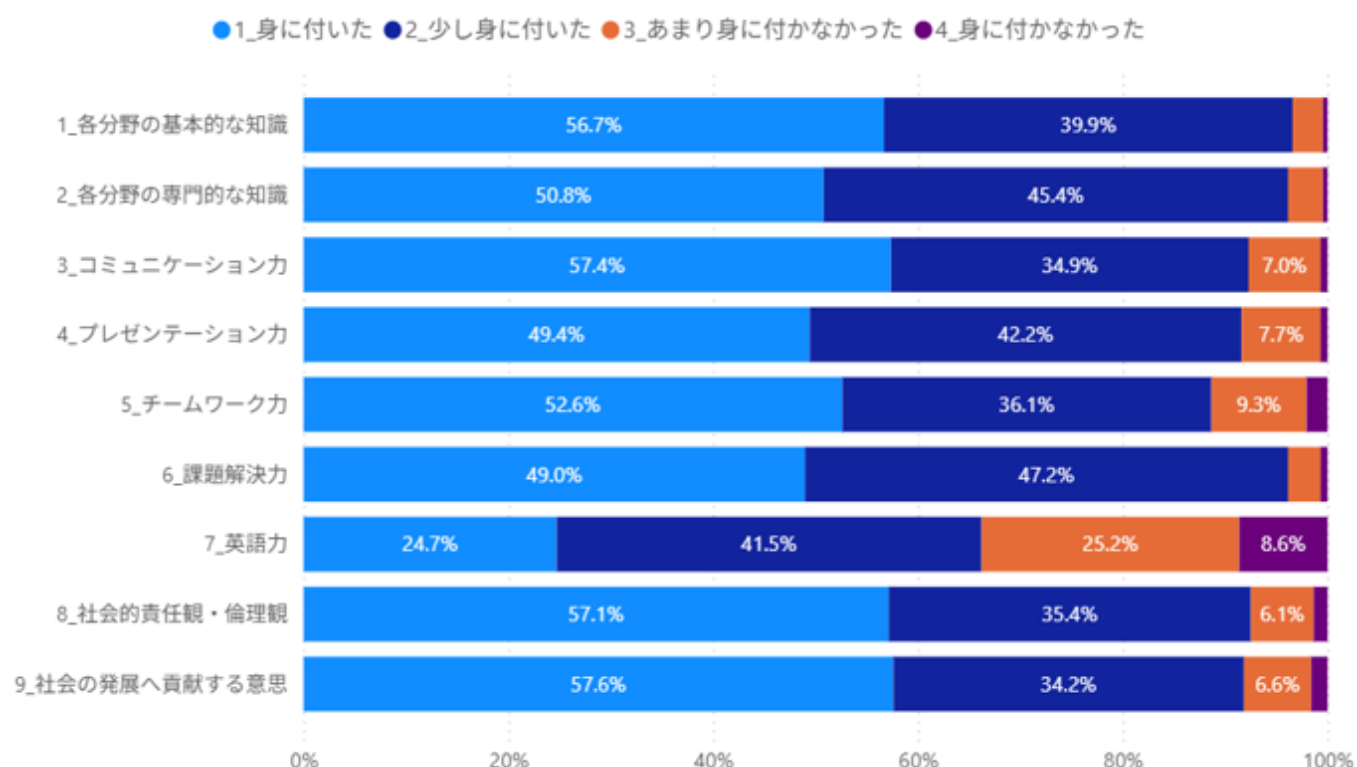
卒業研究	E	M	A	N	F	K	D	S	合計	割合
満足	49	43	56	16	17	62	20	43	306	69.4%
ほぼ満足	16	19	18	3	2	31	15	11	115	26.1%
やや不満	2	0	1	0	1	3	2	6	15	3.4%
不満	1	2	0	0	1	1	0	0	5	1.1%

1-2) それぞれの選択肢を選んだ理由についてお聞かせください。

教養科目、専門科目、卒業研究の各領域において、教育内容に対する肯定的な評価が多数を占めていました。特に、教員による丁寧な指導や学生一人ひとりへのきめ細かな支援、教員と学生との距離の近さに関する評価が多く見られ、本学の教育上の強みとして認識されていることがうかがえました。また、専門知識の習得や研究活動を通じた成長実感、課題解決能力や主体性の向上を評価する意見も多く、学修成果に対する満足度は高い傾向にありました。

一方で、実習・演習機会の拡充や施設設備の充実、より高度な学修機会の提供を求める意見も散見され、教育内容のさらなる充実に向けた改善が必要であると思われます。

1-3) 各学科のディプロマ・ポリシーに基づく「学び」を通じて、以下の知識や能力がどの程度身に付いたかお聞かせください。



各学科のディプロマ・ポリシーに基づく「学び」を通じて、知識や能力の修得を学生がどう感じているか調査しました。

学修成果に関する設問の分析では、多くの項目で「身に付いた」「少し身に付いた」の肯定的回答が 9 割前後を占め、学生は大学での学びを通じて必要な知識や能力を概ね習得できたと認識していることが確認されました。特に「各分野の基本的な知識(96.6%)」、「各分野の専門的な知識(96.2%)」、「課題解決力(96.2%)」では、肯定的回答が 95%以上に達し、高い教育効果が示されました。

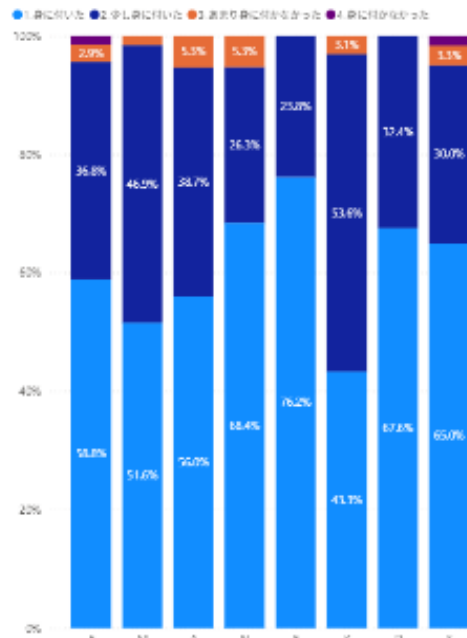
一方、「英語力」は肯定的回答が 66.2%にとどまり、昨年度の 59.3%よりも向上しているものの、他項目と比較して修得実感が低い結果となりました。また、「チームワーク力」でも他項目と比較して、「あまり身に付かなかった」「身に付かなかった」の否定的回答が相対的に多くみられました。

全体として学修成果は良好であるものの、一部の能力については教育内容や学習機会の充実を図り、習得実感の向上に向けた改善が必要と思われます。

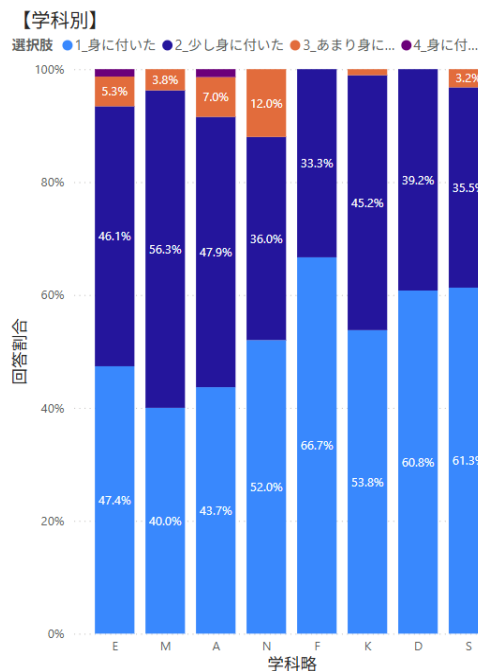
1-3-1) 各分野の基本的な知識

各分野の基本的な知識	E	M	A	N	F	K	D	S	合計	割合
身に付いた	40	33	42	13	16	42	25	39	250	56.7%
少し身に付いた	25	30	29	5	5	52	12	18	176	39.9%
あまり身に付かなかった	2	1	4	1	0	3	0	2	13	2.9%
身に付かなかった	1	0	0	0	0	0	0	1	2	0.5%

(R7)



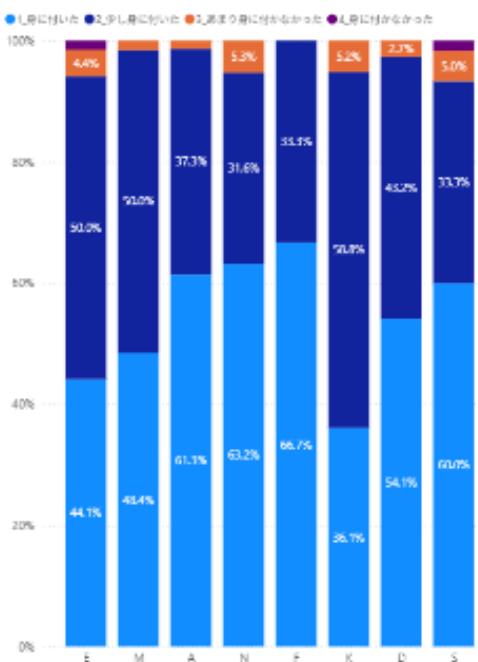
(R6)



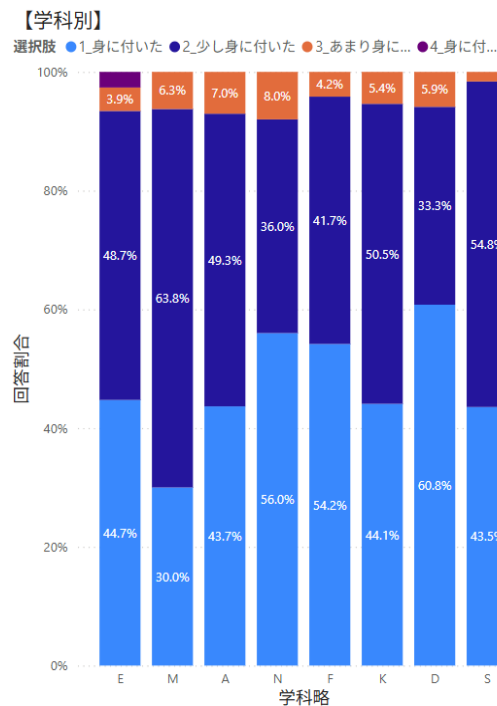
1-3-2) 各分野の専門的な知識

各分野の専門的な知識	E	M	A	N	F	K	D	S	合計	割合
身に付いた	30	31	46	12	14	35	20	36	224	50.8%
少し身に付いた	34	32	28	6	7	57	16	20	200	45.4%
あまり身に付かなかった	3	1	1	1	0	5	1	3	15	3.4%
身に付かなかった	1	0	0	0	0	0	0	1	2	0.5%

(R7)

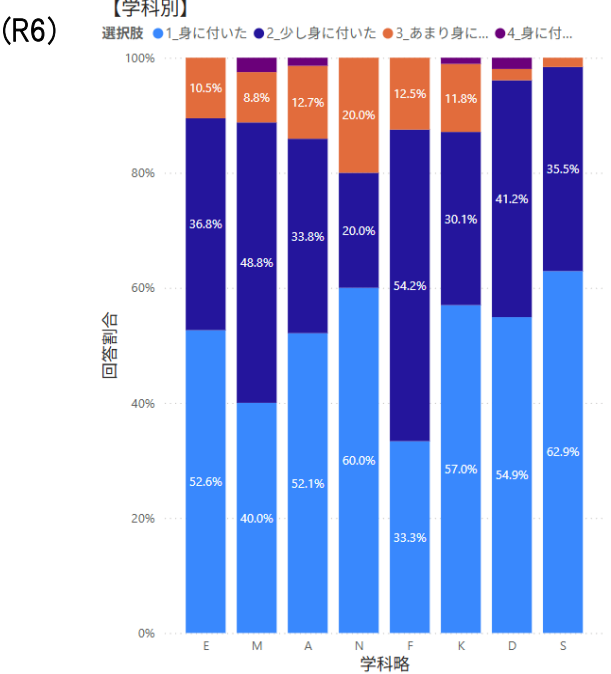
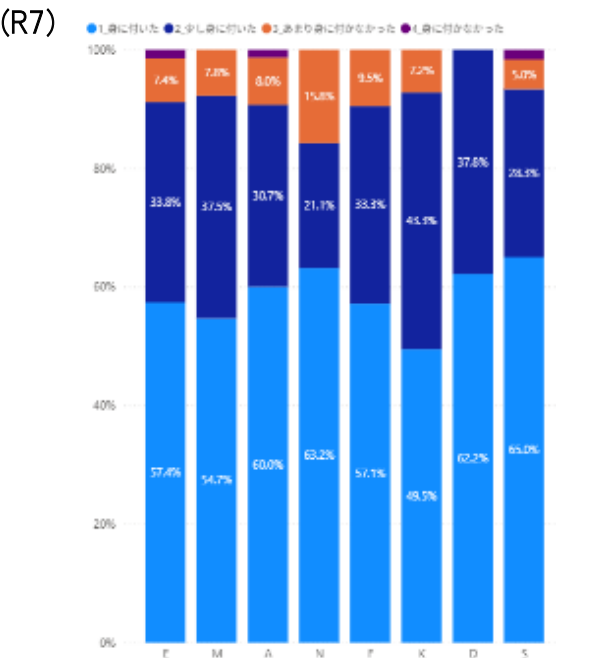


(R6)



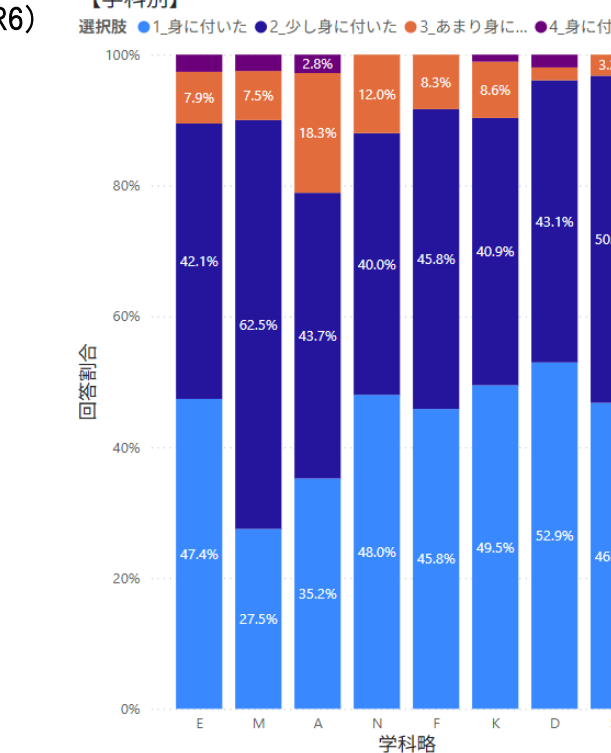
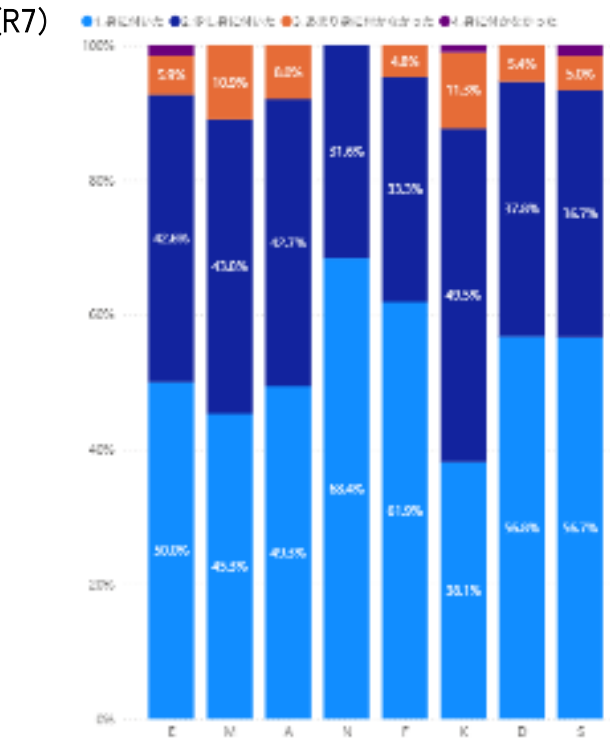
1-3-3) コミュニケーション力

コミュニケーション力	E	M	A	N	F	K	D	S	合計	割合
身に付いた	39	35	45	12	12	48	23	39	253	57.4%
少し身に付いた	23	24	23	4	7	42	14	17	154	34.9%
あまり身に付かなかった	5	5	6	3	2	7	0	3	31	7.0%
身に付かなかった	1	0	1	0	0	0	0	1	3	0.7%



1-3-4) プレゼンテーション力

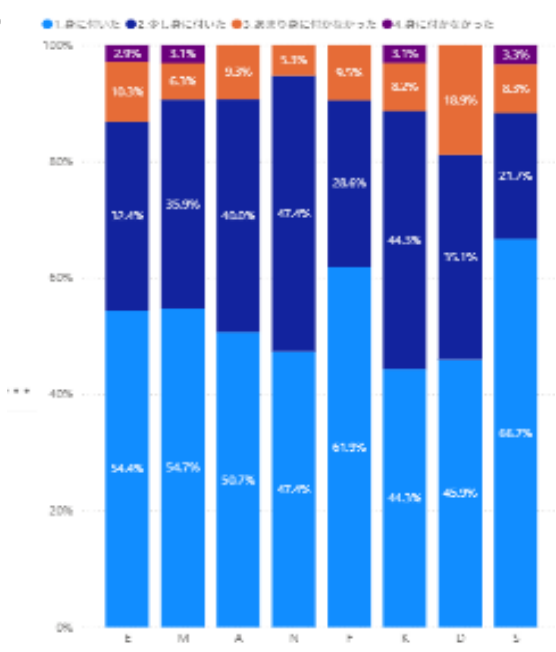
プレゼンテーション力	E	M	A	N	F	K	D	S	合計	割合
身に付いた	34	29	37	13	13	37	21	34	218	49.4%
少し身に付いた	29	28	32	6	7	48	14	22	186	42.2%
あまり身に付かなかった	4	7	6	0	1	11	2	3	34	7.7%
身に付かなかった	1	0	0	0	0	1	0	1	3	0.7%



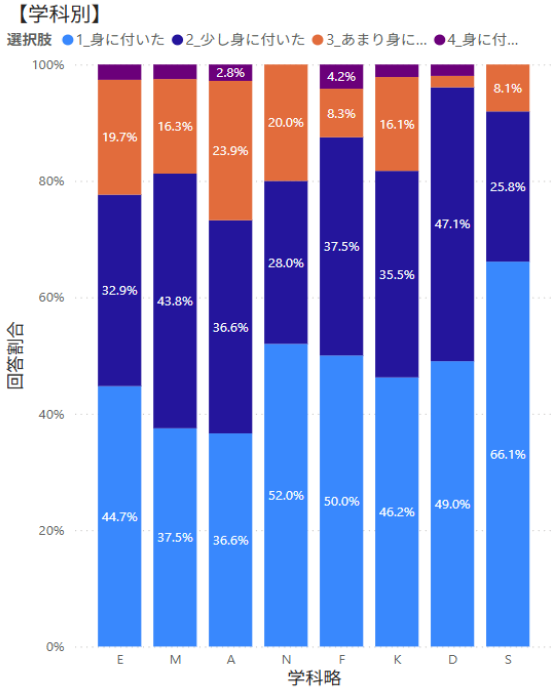
1-3-5) チームワーク力

チームワーク力	E	M	A	N	F	K	D	S	合計	割合
身に付いた	37	35	38	9	13	43	17	40	232	52.6%
少し身に付いた	22	23	30	9	6	43	13	13	159	36.1%
あまり身に付かなかった	7	4	7	1	2	8	7	5	41	9.3%
身に付かなかった	2	2	0	0	0	3	0	2	9	2.0%

(R7)



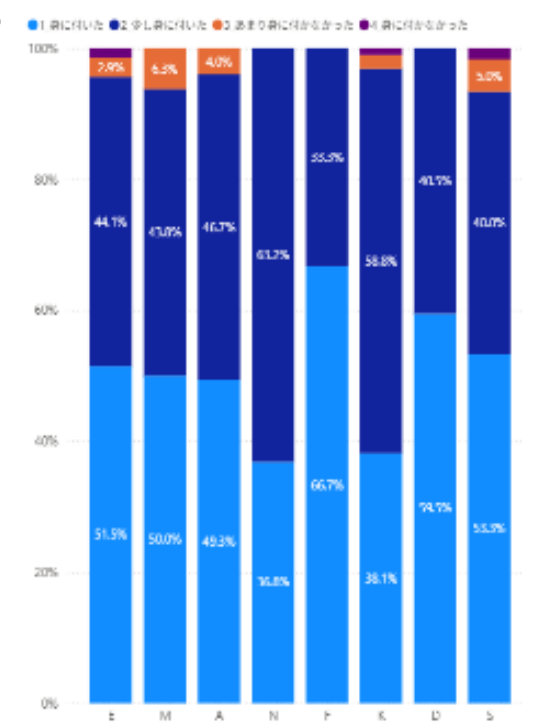
(R6)



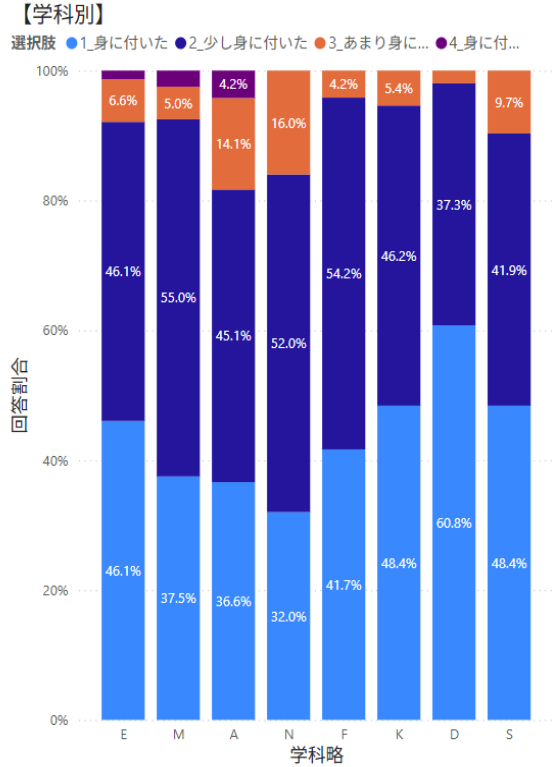
1-3-6) 課題解決力

課題解決力	E	M	A	N	F	K	D	S	合計	割合
身に付いた	35	32	37	7	14	37	22	32	216	49.0%
少し身に付いた	30	28	35	12	7	57	15	24	208	47.2%
あまり身に付かなかった	2	4	3	0	0	2	0	3	14	3.2%
身に付かなかった	1	0	0	0	0	1	0	1	3	0.7%

(R7)

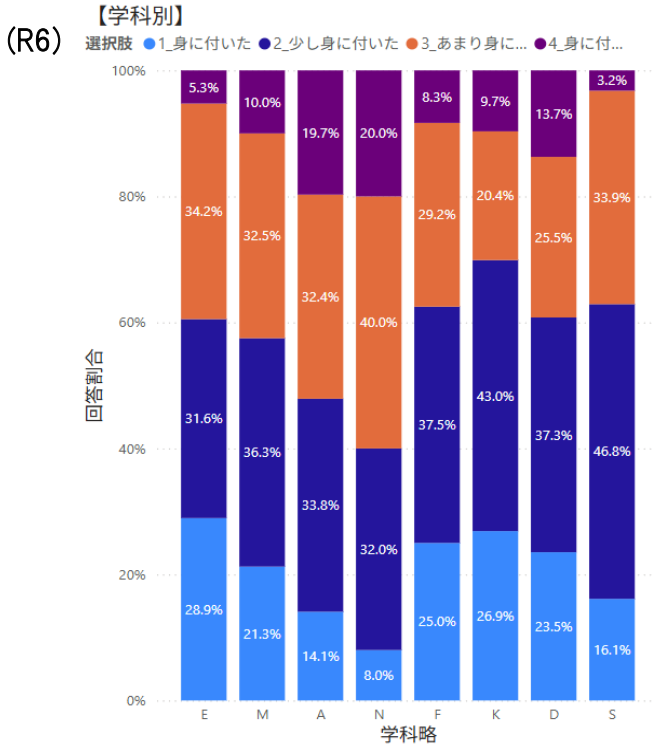
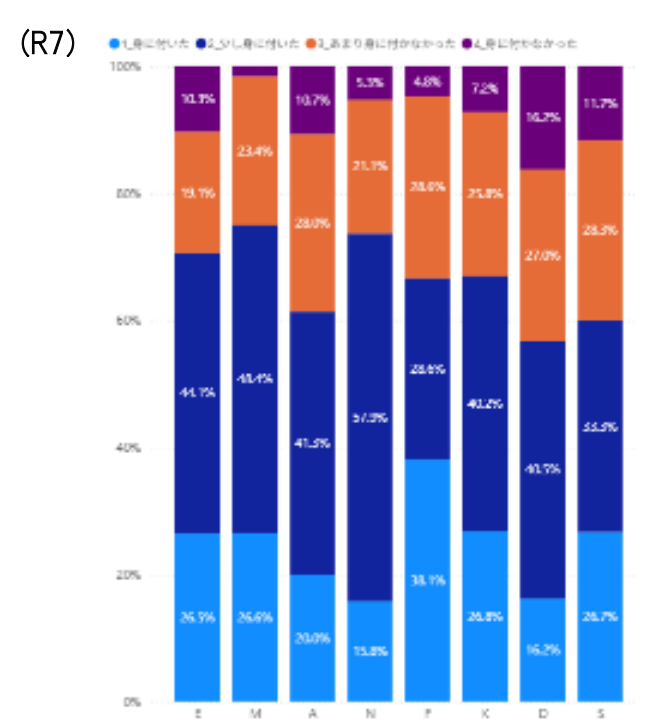


(R6)



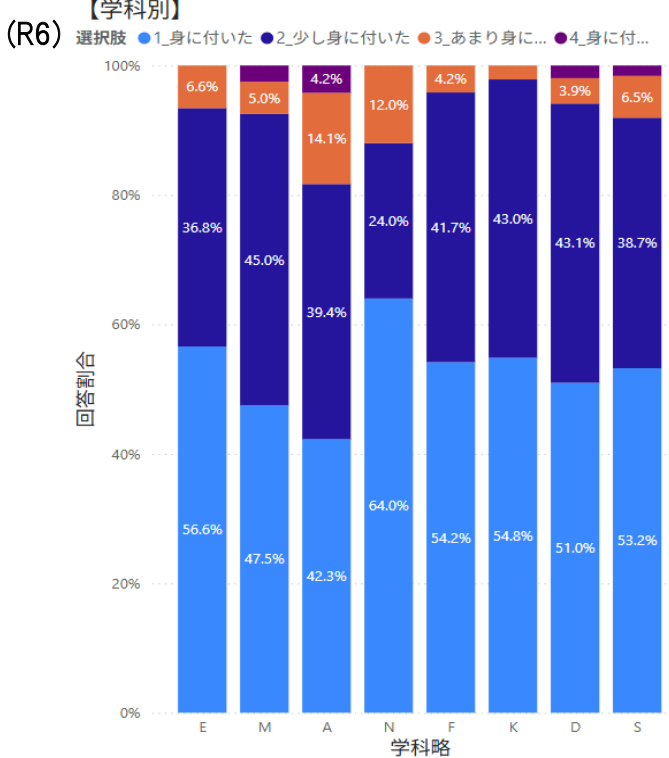
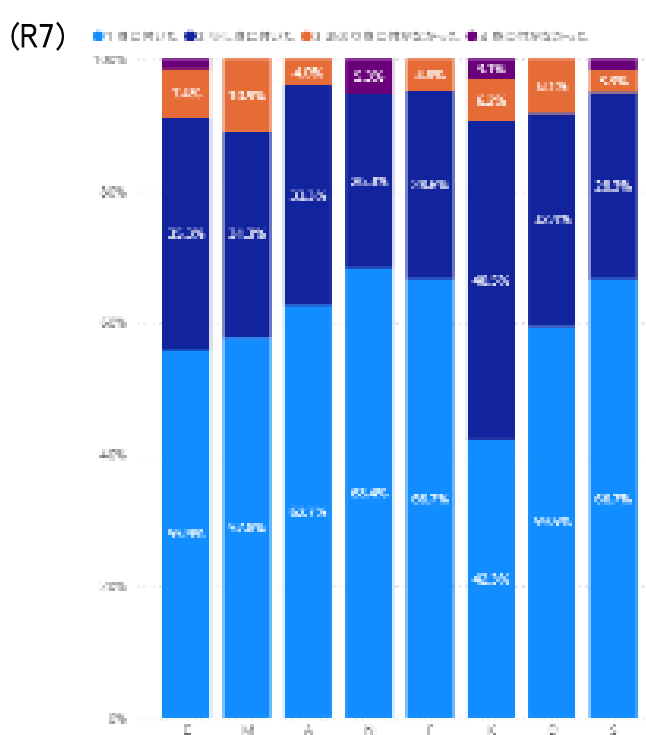
1-3-7) 英語力

英語力	E	M	A	N	F	K	D	S	合計	割合
身に付いた	18	17	15	3	8	26	6	16	109	24.7%
少し身に付いた	30	31	31	11	6	39	15	20	183	41.5%
あまり身に付かなかった	13	15	21	4	6	25	10	17	111	25.2%
身に付かなかった	7	1	8	1	1	7	6	7	38	8.6%



1-3-8) 社会的責任感・倫理観

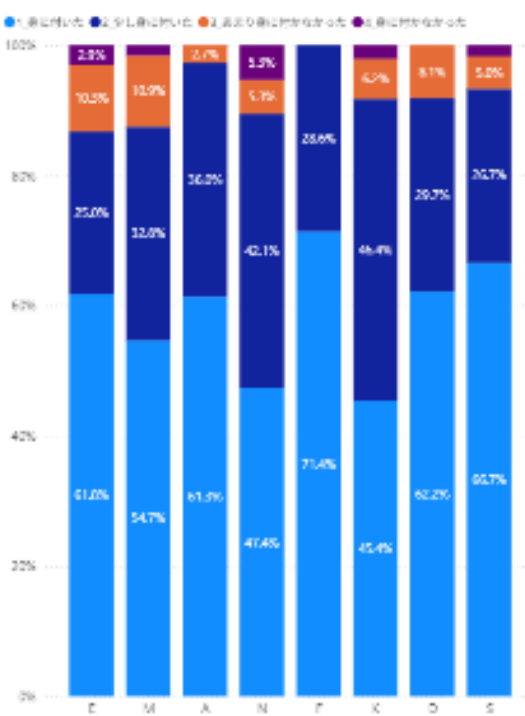
社会的責任感・倫理観	E	M	A	N	F	K	D	S	合計	割合
身に付いた	38	37	47	13	14	41	22	40	252	57.1%
少し身に付いた	24	20	25	5	6	47	12	17	156	35.4%
あまり身に付かなかった	5	7	3	0	1	6	3	2	27	6.1%
身に付かなかった	1	0	0	1	0	3	0	1	6	1.4%



1-3-9) 社会の発展へ貢献する意思

社会の発展へ貢献する意思	E	M	A	N	F	K	D	S	合計	割合
身に付いた	42	35	46	9	15	44	23	40	254	57.6%
少し身に付いた	17	21	27	8	6	45	11	16	151	34.2%
あまり身に付かなかった	7	7	2	1	0	6	3	3	29	6.6%
身に付かなかった	2	1	0	1	0	2	0	1	7	1.6%

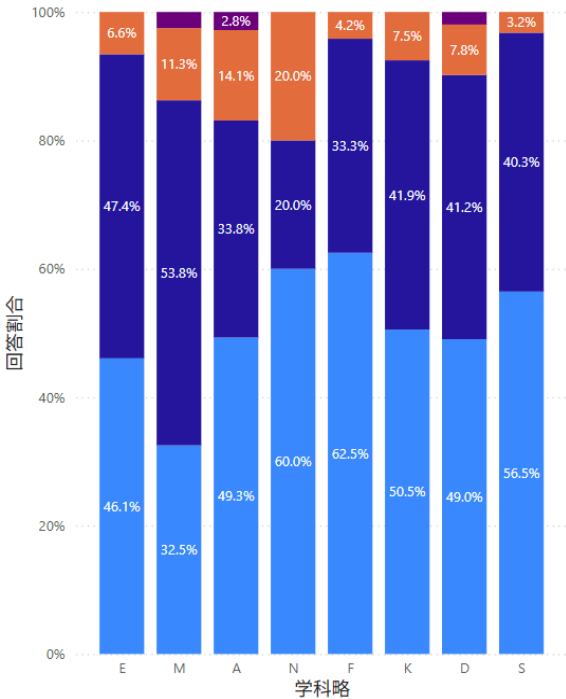
(R7)



(R6)

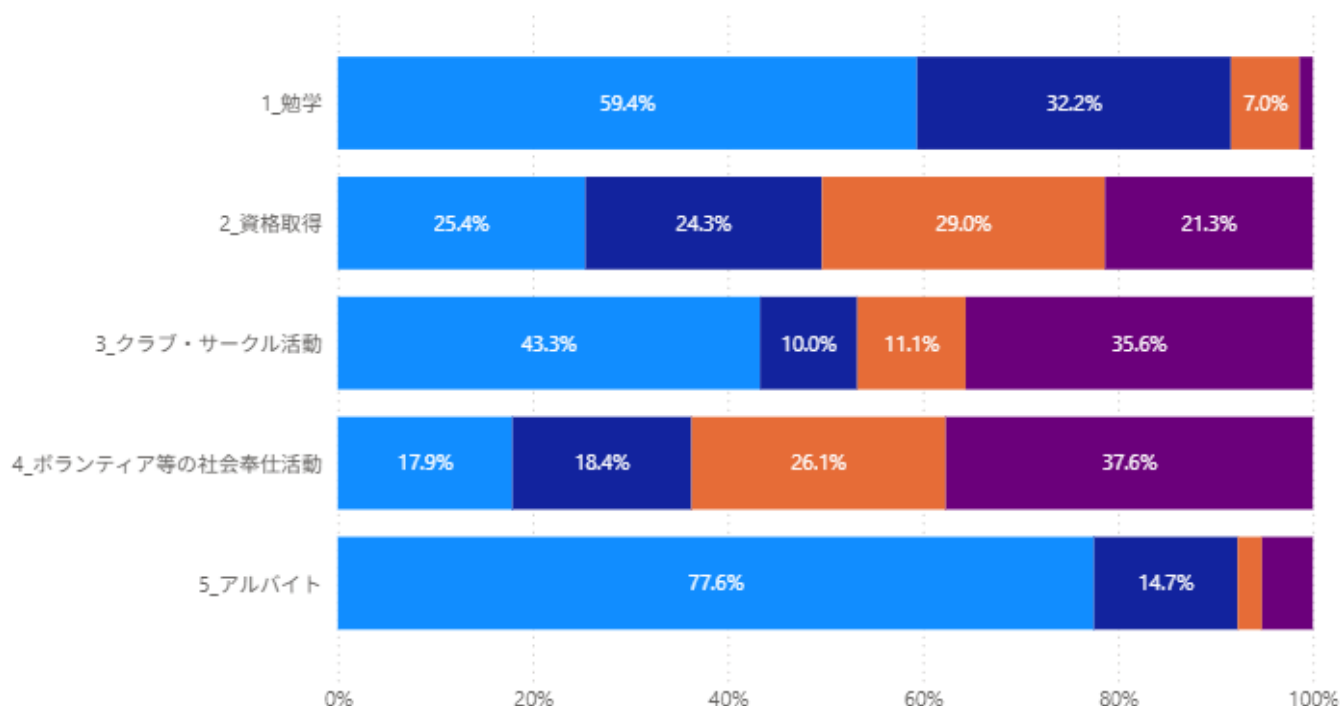
【学科別】

選択肢 ●1_身に付いた ●2_少し身に付いた ●3_あまり身に... ●4_身に付...



2-1) 大学生活において、次のことに取り組みましたか。

●1_取り組んだ ●2_少し取り組んだ ●3_あまり取り組まなかった ●4_全く取り組まなかった



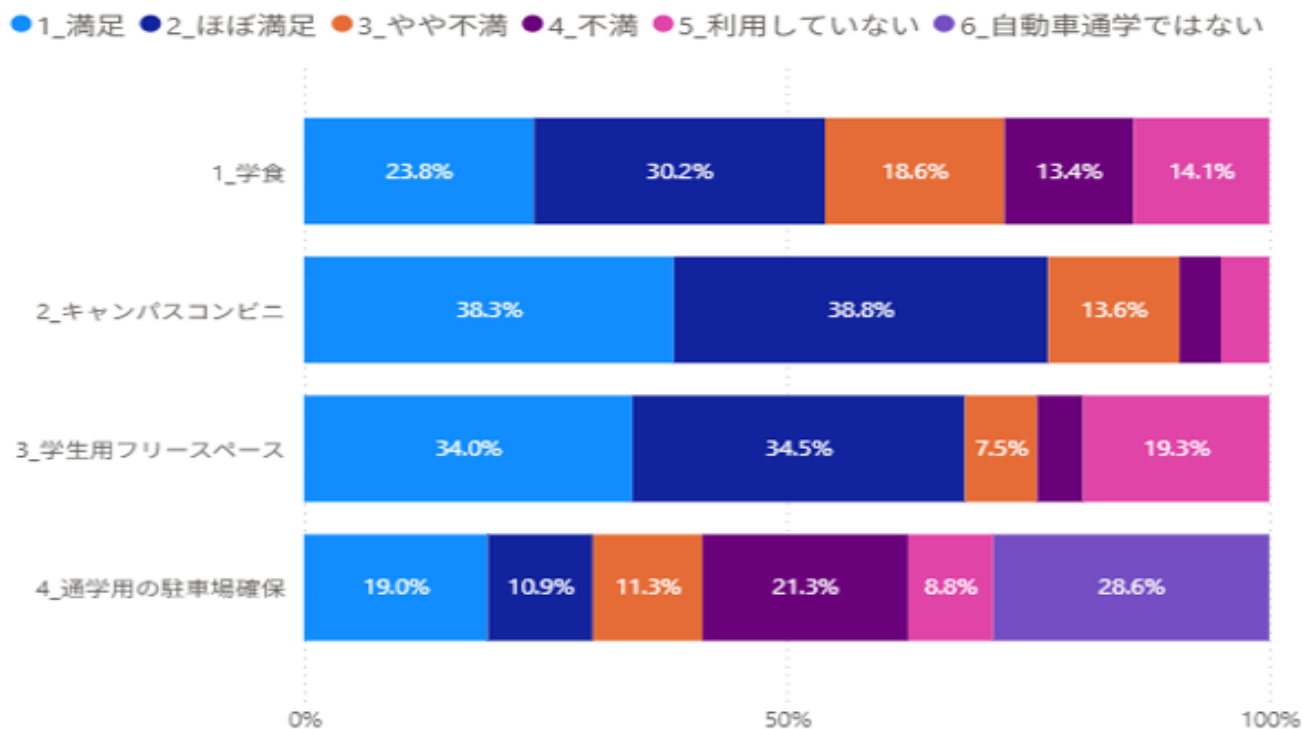
大学生活における各活動への取り組みについて、調査しました。

「勉学」および「アルバイト」では、「取り組んだ」「少し取り組んだ」を合わせた肯定的回答が9割を超え、多くの学生が積極的に取り組んでいたことが確認されました。特に「アルバイト」は、肯定的回答が昨年度の87.8%から92.3%に上昇していることが分かりました。

一方、「資格取得」および「クラブ・サークル活動」では肯定的回答が約5割程度にとどまり、「ボランティア等の社会奉仕活動」では否定的回答が6割を超える(63.7%)結果となりました。

2-2) 大学生活環境の満足度をお聞かせください。

2-3) それぞれの選択肢を選んだ理由についてお聞かせください。



大学生活環境に関する満足度について、調査しました。

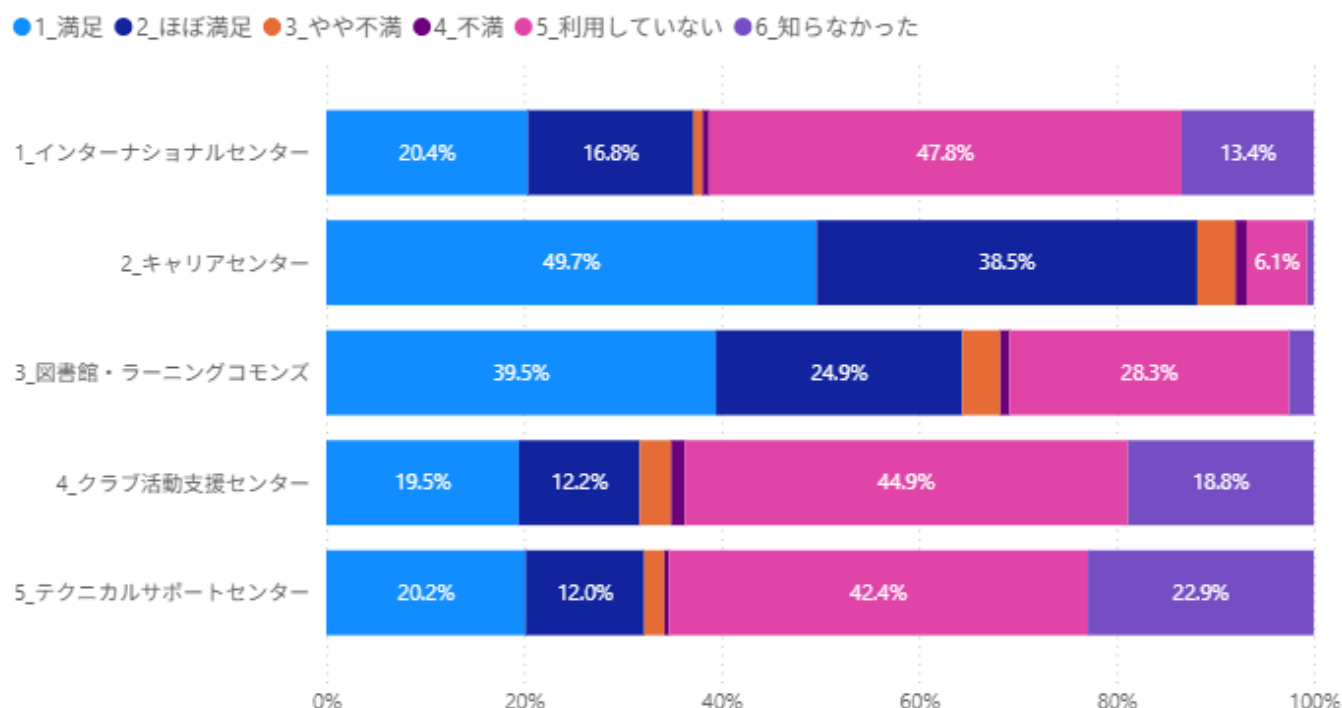
キャンパスコンビニ、学生用フリースペースについては、「満足」「ほぼ満足」が多数を占め、全体として良好な評価となっていました。

選択肢を選んだ理由としては、学食のメニューの豊富さや後援会事業の学食1食無料クーポンの配布、キャンパスコンビニの利便性、学生用フリースペースの充電設備や学習スペースが評価されていました。

一方で、学食やキャンパスコンビニの価格設定に対する不満や学生用フリースペースの混雑、駐車場不足や確保の難しさに関する意見も多く見られました。特に駐車場については、自動車通学者から改善要望が複数寄せられており、大学生活環境における主要な課題の一つとなっていると思われます。

以上の結果から、施設環境への評価は高いものの、今後は利便性や価格設定等に関する改善が必要と思われます。

3) 以下のセンター等の支援・サービスの満足度をお聞かせください。



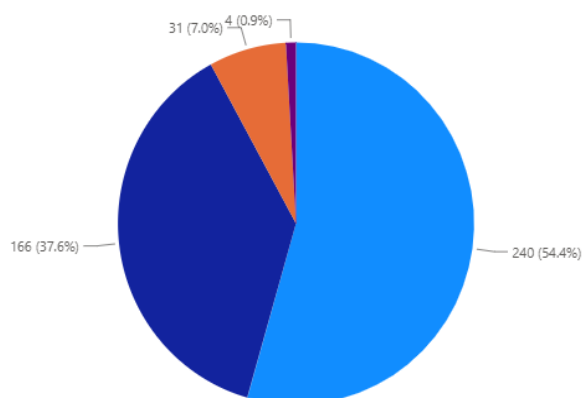
各センター等の支援・サービスの満足度について、調査しました。

利用実績のある利用者からは高い満足度が示され、特に利用経験のある学生では「満足」「ほぼ満足」が大半を占め、支援・サービスに対する評価は良好でした。

一方で、「利用していない」および「知らなかった」とする回答も多く、国際センターやクラブ活動支援センター、テクニカルサポートセンターについては、所属学科や所属クラブによって、利用する学生が限定的となるため、全体としては認知度や利用率が低い結果となりました。

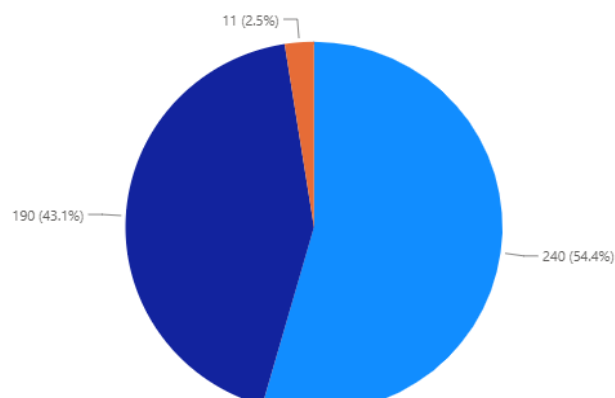
今後は各センターの支援内容の質を保ちながら、利用促進や周知方法の改善を図っていく必要があると思われます。

- 4-1) 英語教育プログラム(以下、SPEC※という)における外国人教員の授業について感想をお聞かせください。
 4-2) 本学に入学する以前に比べ、SPECを受けたことによる英語への意識の変化をお聞かせください。
 4-3) SPECについて、率直な意見や感想(良かった点、改善すべき点など)をお聞かせください。



●1_良かった ●2_やや良かった ●3_あまり良くなかった ●4_良くなかった

4-1) 集計結果



●2_変わらない ●1_(どちらかといえば)得意・好きになった ●3_より苦手・嫌いになった

4-2) 集計結果

(※)英語教育プログラム「SPEC」(Special Program for English Communication)の略
 「使える」「伝わる」英語力を4年間で身につける、本学独自の英語教育プログラム

SPECに関する取り組みや意識変化等について、調査しました。

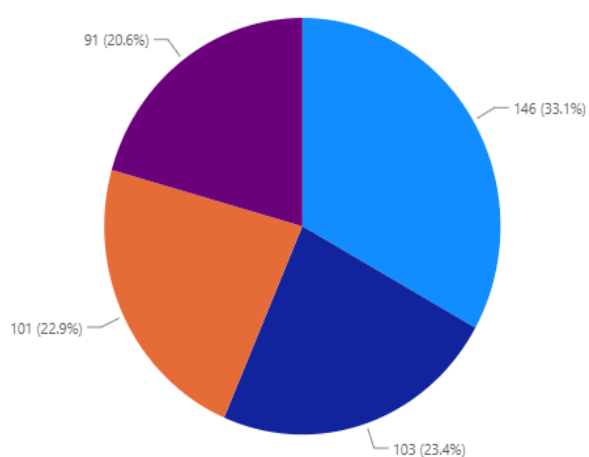
学生からは、外国人教員とのコミュニケーション機会や実践的な英語学習環境が高く評価され、「英語への苦手意識が軽減した」、「英語に興味を持つようになった」との意見が多く、英語学習への意欲向上に寄与していることがうかがえました。また、「授業が分かりやすく、楽しみながら学べた」との声も目立ちました。

一方で、一部には授業内容への理解の難しさや、さらなる学習支援を求める意見も見られました。

以上の結果から、SPECは学生の英語力向上や国際的視野の形成に貢献しており、本学の特色ある教育プログラムとして高く評価されていることが確認されました。外国人教員による熱心な英語教育が、この結果に繋がっているものと思われます。

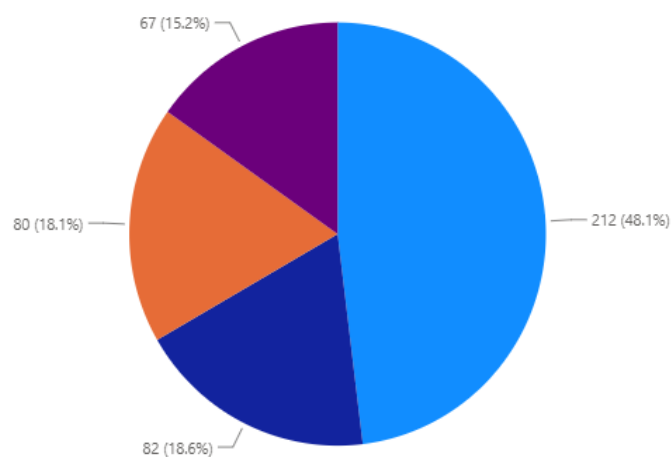
5-1) 大学の活動(授業や課外活動など)の中で、留学生と会話する機会がどれくらいありましたか。留学生の方は日本人学生と会話する機会がどれくらいありましたか。

5-2) 大学以外の場所で、留学生と食事や遊びに行く機会がどれくらいありましたか。留学生の方は大学以外の場所で、日本人学生と食事や遊びに行く機会がどれくらいありましたか。



● 2_ある程度あった ● 4_全くなかった ● 1_たくさんあった ● 3_ほとんどなかった

5-1) 集計結果



● 4_全くなかった ● 3_ほとんどなかった ● 1_たくさんあった ● 2_ある程度あった

5-2) 集計結果

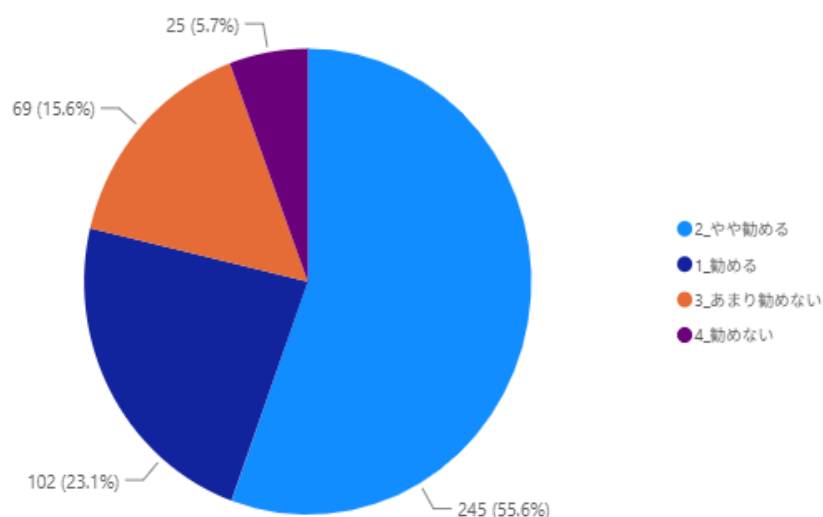
留学生との交流(留学生は日本人との交流)について、調査しました。

授業や課外活動における留学生との交流については、「ある程度あった」とする回答が一定数みられました。一方、「ほとんどなかった」「全くなかった」とする回答も多く、学生間の交流機会には差が見られました。大学外での交流はさらに少なく、日常的な交流へ発展していない傾向が確認されました。

国際交流の機会そのものは存在するものの、所属する学科によって留学生数に差異があるため、参加学生が限定されている可能性がみられました。

今後はインターナショナルセンターを中心に、授業内外での交流機会の創出や継続的な交流支援を強化し、日本人学生と留学生の相互理解を深める取り組みの充実が求められると思われます。

6-1) 知人に福井工業大学への進学を勧めたいと思いますか。



本学進学の推奨	E	M	A	N	F	K	D	S	合計	割合
勧める	20	14	22	4	5	17	6	14	102	23.1%
やや勧める	36	33	42	14	10	53	24	33	245	55.6%
あまり勧めない	8	11	10	1	5	19	5	10	69	15.6%
勧めない	4	6	1	0	1	8	2	3	25	5.7%

6-2) 6-1 の答えを選んだ理由について、最も当てはまるものを以下の選択肢の中から選んでください。

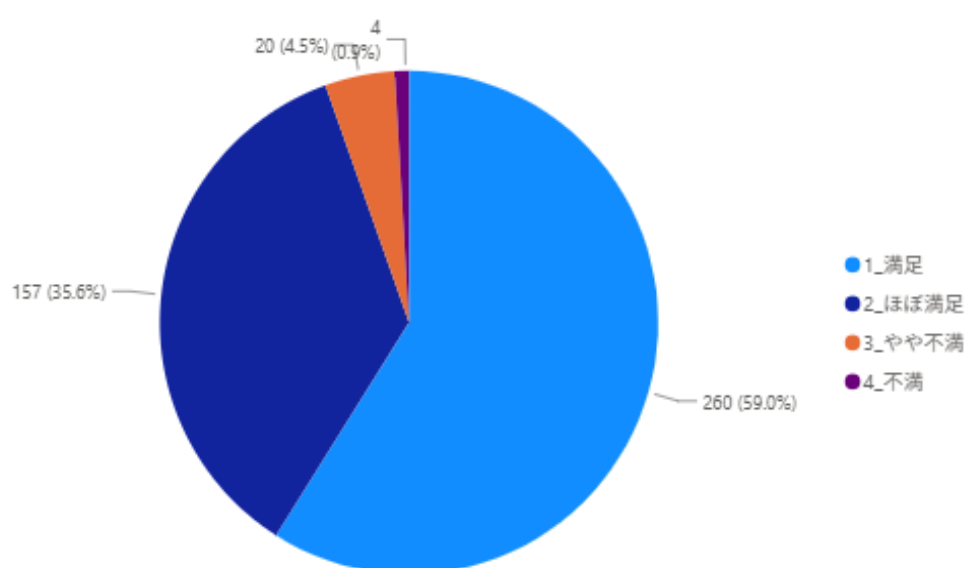
問6-1理由	教育内容	教育設備	研究内容	研究環境	教員	キャンパスの雰囲気	就職実績	クラブ・サークル活動	通学の利便性
勧める	30	15	10	5	11	6	13	11	1
やや勧める	58	28	21	14	26	14	42	32	10
あまり勧めない	40	4	1	2	1	11	1	6	3
勧めない	13	1	0	0	6	1	1	2	1
計	141	48	32	21	44	32	57	51	15

知人への進学推薦意向について、調査しました。

「勧める」「やや勧める」が全体の約 8 割(78.7%)を占め、本学に対する評価は概ね良好でした。理由としては、教育内容や教員の指導、就職支援、学習環境などが挙げられました。特に教員との距離の近さやキャリア支援に対する評価が高いことが分かりました。一方で、一部には教育内容や施設面への不満から「あまり勧めない」「勧めない」とする回答も見られました。

全体として「本学を勧めたい」と思う学生の割合は高いが、キャンパスの雰囲気づくりや学生サービスの充実・改善を図ることにより、さらなる向上を期待できると思われます。

7-1) 大学卒業後の進路についての満足度をお聞かせください。



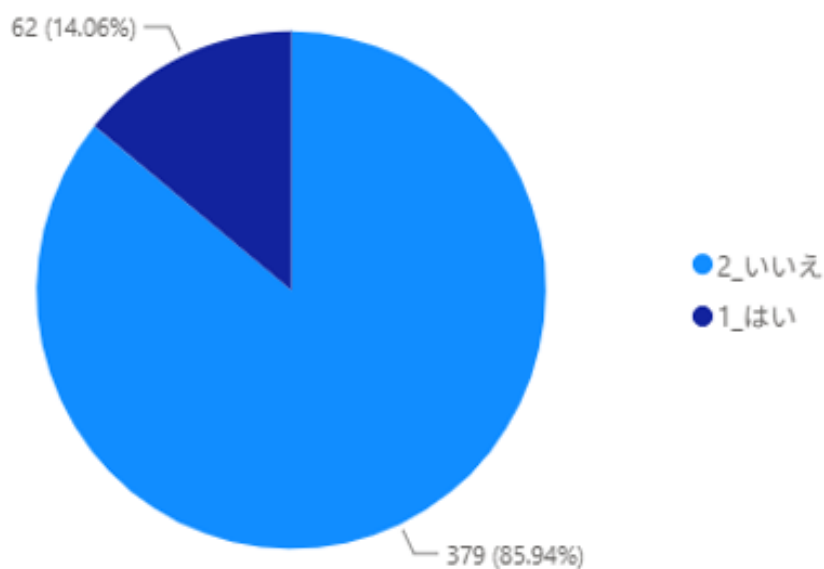
進路満足度	E	M	A	N	F	K	D	S	合計	割合
満足	37	42	50	13	16	46	21	35	260	59.0%
ほぼ満足	25	17	23	6	4	47	13	22	157	35.6%
やや不満	5	4	2	0	0	4	3	2	20	4.5%
不満	1	1	0	0	1	0	0	1	4	0.9%

卒業後の進路満足度について、調査しました。

「満足」「ほぼ満足」が9割以上(94.6%)を占め、昨年度の93.7%に引き続き、極めて高い結果となりました。学生の多くが希望する進路を実現できており、本学の教育やキャリア支援、キャリアセンターの手厚いサポート体制が進路形成に一定の成果を上げていることが確認されました。一方で、少数ながら不満を抱く学生も存在するため、個別支援や進路選択支援のさらなる充実が必要であると思われます。

7-2) 大学卒業後の進路選択として大学院への進学を検討しましたか。

7-3) 7-2 で「はい」と答えた方にお聞きます。現在の進路を選択した理由をお聞かせください。

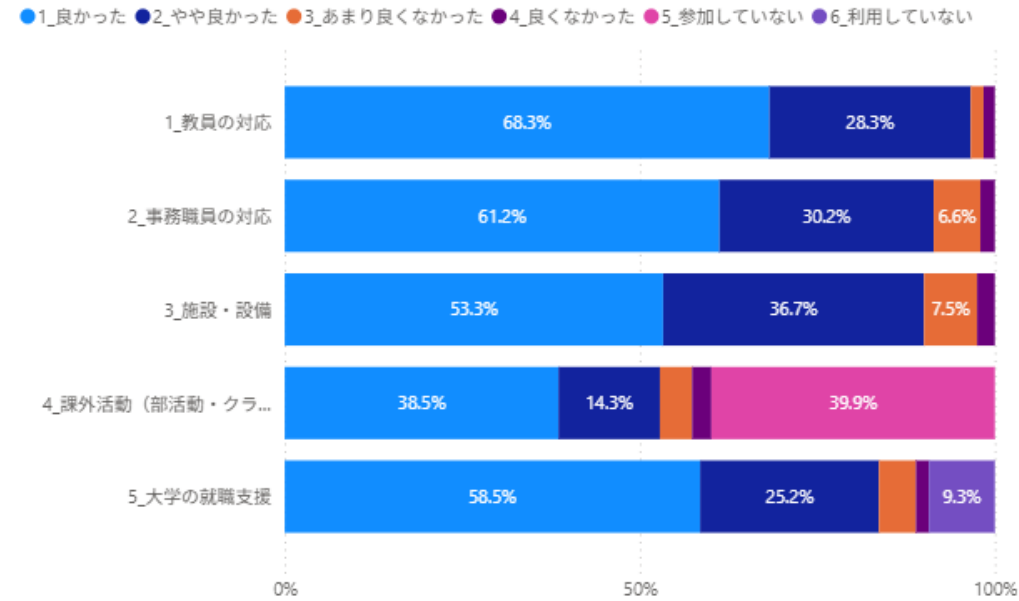


大学院進学を検討したかどうかについて、調査しました。

検討した学生は約 14%にとどまり、多くの学生は学部卒業後に就職を選択していました。進学を検討した理由としては、「専門知識をさらに深めたい」、「研究を継続したい」、「将来の選択肢を広げたい」といった意見が多くありました。一方で、経済的負担や就職志向、進学情報不足などを理由に進学を断念した事例も見られました。

今後、大学院進学を促進するためには、進学メリットや経済的支援の周知、教職協働の進学相談体制の充実が必要であると思われます。

8) 学生の皆さんへサポート体制について、以下の区分ごとに感想をお聞かせください。

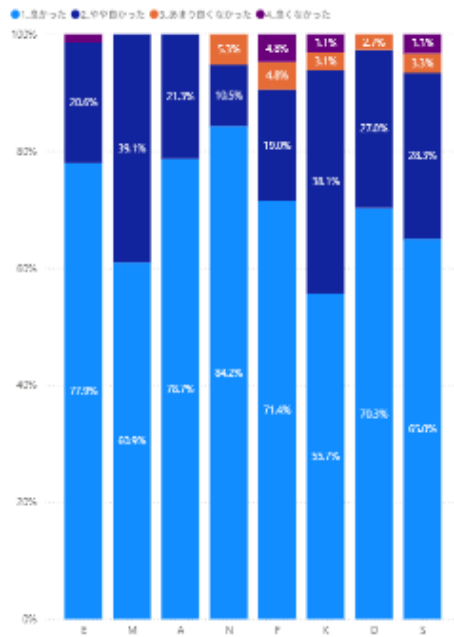


学生サポート体制について、調査しました。

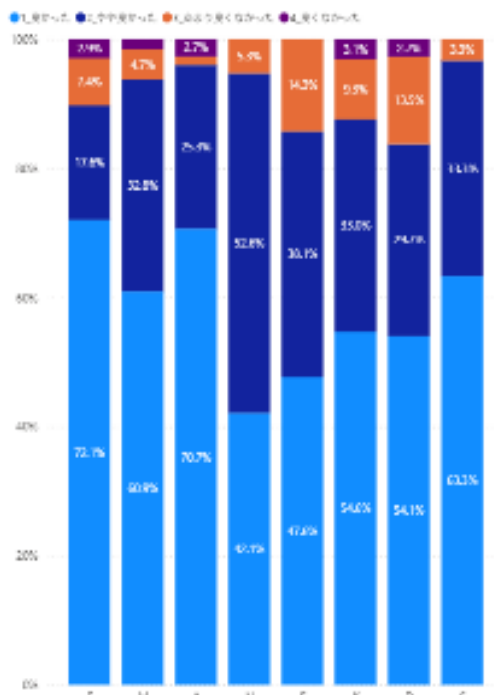
全体として「良かった」「やや良かった」が多数を占め、高い評価が得られました。特に教職員の対応や就職支援、学修支援について肯定的な意見が多く、学生生活を支える体制が機能していることがうかがえました。一方で、参加機会が少なかった課外活動（部活動・サークル活動）については、学務課や学友会による支援内容の周知や在学生に対するクラブ紹介の機会創出などが今後の課題として挙げられます。

以上の結果から、学生支援体制は本学の強みの一つとして評価することができ、学生募集活動においても、学生サポート体制の取り組みや高い評価について、継続的にアピールしていく必要があると思われます。

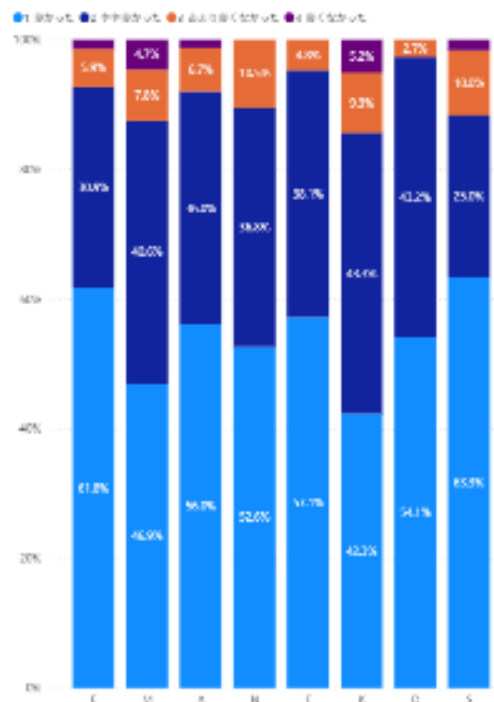
教員の対応	E	M	A	N	F	K	D	S	合計	割合
良かった	53	39	59	16	15	54	26	39	301	68.3%
やや良かった	14	25	16	2	4	37	10	17	125	28.3%
あまり良くなかった	0	0	0	1	1	3	1	2	8	1.8%
良くなかった	1	0	0	0	1	3	0	2	7	1.6%



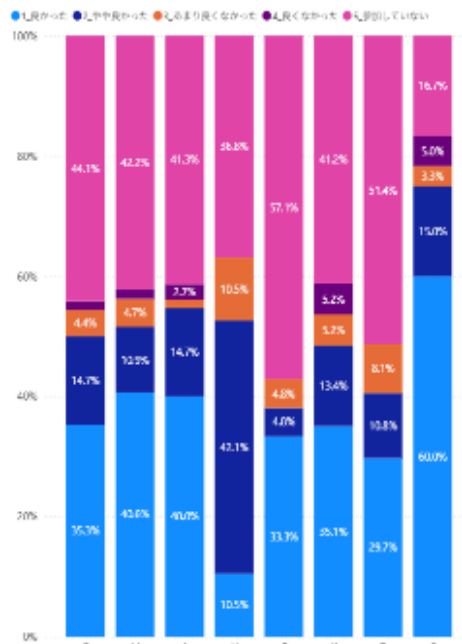
事務職員の対応	E	M	A	N	F	K	D	S	合計	割合
良かった	49	39	53	8	10	53	20	38	270	61.2%
やや良かった	12	21	19	10	8	32	11	20	133	30.2%
あまり良くなかった	5	3	1	1	3	9	5	2	29	6.6%
良くなかった	2	1	2	0	0	3	1	0	9	2.0%



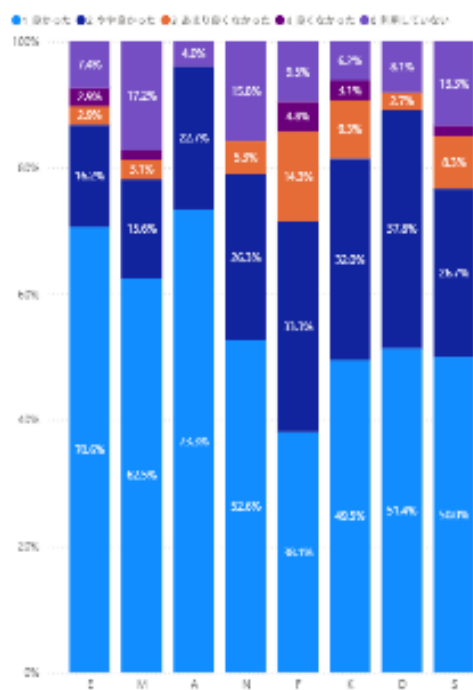
施設・設備	E	M	A	N	F	K	D	S	合計	割合
良かった	42	30	42	10	12	41	20	38	235	53.3%
やや良かった	21	26	27	7	8	42	16	15	162	36.7%
あまり良くなかった	4	5	5	2	1	9	1	6	33	7.5%
良くなかった	1	3	1	0	0	5	0	1	11	2.5%



課外活動(部活動・クラブ活動)	E	M	A	N	F	K	D	S	合計	割合
良かった	24	26	30	2	7	34	11	36	170	38.5%
やや良かった	10	7	11	8	1	13	4	9	63	14.3%
あまり良くなかった	3	3	1	2	1	5	3	2	20	4.5%
良くなかった	1	1	2	0	0	5	0	3	12	2.7%
参加していない	30	27	31	7	12	40	19	10	176	39.9%



大学の就職支援	E	M	A	N	F	K	D	S	合計	割合
良かった	48	40	55	10	8	48	19	30	258	58.5%
やや良かった	11	10	17	5	7	31	14	16	111	25.2%
あまり良くなかった	2	2	0	1	3	9	1	5	23	5.2%
良くなかった	2	1	0	0	1	3	0	1	8	1.8%
利用していない	5	11	3	3	2	6	3	8	41	9.3%



9) 最後に、本学で大学生活を過ごしたあなただからこそ言える、本学の良かった点と悪かった点をお答えください。

本学の良かった点、悪かった点について、調査しました。

「本学の良かった点」では、教員と学生の距離の近さや親身な指導体制を評価する意見が最も多く見られました。授業や研究活動において質問や相談がしやすく、一人ひとりに対して丁寧な指導が行われていたことが、学生の学修意欲や成長実感につながっていることがうかがえました。また、卒業研究や専門科目を通じて専門知識や技術を深めることができたとの意見も多く、本学の実践的な教育環境に対する評価は高い傾向となりました。

さらに、キャリアセンターをはじめとする就職支援についても、個別相談や面接指導、求人情報の提供などが充実しており、希望する進路の実現につながったとの声が多数寄せられていました。このほか、学習環境や施設設備、課外活動への支援、学生相談体制などについても肯定的な意見が見られ、本学の教育・学生支援体制が総合的に高く評価されていることが確認されました。

一方、「悪かった点」としては、学生生活環境に関する意見が多く寄せられました。特に駐車場不足や駐車スペースの確保に関する要望は複数見られ、自動車通学を行う学生にとって大きな課題となっていることがうかがえました。また、学食やキャンパスコンビニの価格設定、メニューの充実度、営業時間などに関する改善要望も見られました。施設面では、エレベーターの混雑や学内フリースペースの不足、設備の老朽化などを指摘する意見もあり、学生生活の利便性向上を求める声が確認されました。さらに、一部では授業運営や事務手続き、休講連絡の方法などについて改善を求める意見も見られました。

以上の結果から、卒業生は本学の教育内容、教員による指導、就職支援に対して高い満足度を示しており、これらは本学の大きな強みであると考えられます。一方で、施設設備や学生生活環境に関する課題も明らかとなっており、教育面での強みを維持しながら、学生生活の利便性向上に向けた環境整備や運営改善を進めることが、今後の学生満足度の向上につながっていくものと思われます。

4. まとめ

令和 7 年度も manaba を利用した Web 調査により、卒業生満足度アンケートを実施しました。

本アンケート調査の結果から、卒業生は本学での学修成果、学生生活、進路支援等に対して高い満足度を示していることが確認されました。特に、教員による丁寧な指導、学生との距離の近さ、専門教育や卒業研究における成長実感、キャリアセンターを中心とした就職支援については高い評価が得られており、本学の教育・支援体制の強みとして認識されていました。

また、大学卒業後の進路満足度も非常に高く、多くの学生が希望する進路を実現できていることから、教育活動とキャリア支援が一定の成果を上げていることが確認されました。

一方で、学生生活環境や各種支援・サービス等に関しては改善を求める意見も見られました。具体的には、駐車場不足、学食やキャンパスコンビニの販売価格、施設利用時(特に、エレベーター)の混雑など、学生生活の利便性に関する課題が指摘されました。

また、国際交流活動や一部の課外活動については参加率に差が見られ、学生によって経験機会に偏りが生じていることが確認されました。

今後は、本学の強みである少人数教育や学生支援体制を維持・発展させるとともに、施設環境の改善、支援体制の強化、国際交流や課外活動への参加促進を進めていく必要があります。学生の多様なニーズに対応した支援を充実させることで、教育効果のさらなる向上と学生満足度の向上につなげていくことが求められています。

最後に、本アンケートの実施にあたり、ご多忙の中ご回答いただいた卒業生の皆様に心より感謝申し上げます。

今年度の卒業生アンケートは、過去 5 年間で最も高い回答率を達成することができました。これは、教学 IR 委員会委員の先生方をはじめ、各学科の担当教員の先生方が、学生に対して継続的かつ丁寧な周知と回答の呼びかけを行ってくださった成果によるものです。皆様のご尽力により、多くの卒業生の声を収集することができ、本学の教育活動や学生支援の成果と課題をより正確に把握する貴重な機会となりました。

本アンケートで寄せられた意見や要望は、今後の教育内容の改善、学生支援体制の充実および大学運営の質向上に活用してまいります。改めまして、本調査にご協力いただいたすべての皆様に厚く御礼申し上げます。

以上